

【中学生の部】 審査員賞

『明日の世界が君に優しくありますように』(汐見 夏衛/著)

鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校 3年 神 美憂

みなさんは誰かの幸せを願ったことはありますか。この本では誰かの幸せも自分の幸せすらも願ったことがない主人公が、いろいろな人と出会っていく中で、その優しさや厳しさが主人公を変えていく物語です。

私はこの本を読んだことで、今まで気づいていなかった周りの人の小さな優しさや、厳しさに気づけました。そして、自分がどれだけ周りの人に大切にされているのかということに、あらためて気づくことができました。

この本を読むことで、自分の家族や友達を大切にしたいという気持ちや、あの人が幸せになりますようにと願う気持ちが芽生えるすてきな一冊です。

『星やどりの声』(朝井 リョウ/著)

八戸市立明治中学校 3年 浪岡 望月

この本の舞台は、連ヶ浜町にある小さな純喫茶「星やどり」。その店を営む早坂家は、三男三女母ひとりで、父は数年前に他界した。七人それぞれがそれぞれの思いを抱いて暮らしていく中で、「星やどり」に隠されたある秘密が明らかになっていく。

家族がいること。そして、自分自身もその一員であること。この本は、そんな当たり前のことの大切さを教えてくれる。どの家庭にもある家族の「輪」。何があっても途切れることのない「輪」。私たちの年頃では、家族に反抗したり、素直になれなかったりする。しかし、この本を読んで、家族がいること、また、自分も家族の「輪」の中にいることの大切さを感じてほしい。

『ライオンのおやつ』(小川 糸/著)

八戸市立大館中学校 1年 赤坂 乃々夏

私が薦める本は、小川糸さんの「ライオンのおやつ」です。この本は、「死」というものが身近にある人達が最後の時間を「ライオンの家」で過ごす物語です。ライオンの家では、毎週日曜日になるとゲストという余命わずかな人達が食べたいおやつをリクエストして、その中の一つが選ばれ、ゲストの人達に出されます。みなさんは、死ぬ時が怖いと感じますか。数年前、曾祖父が眠るように亡くなり、小さかった私は、曾祖父のことを「怖い」と言っていました。今、思うと、曾祖父は死ぬのが怖いというよりも自分がこの先どうなるのか、苦しいのかなど思っていたのだと思います。私はこの本を読んで、「死」とは何かを改めて学ぶことができました。